

3月下旬の小石川植物園を歩いていると、やわらかな春の光の中で、ひっそりと黄色い花を咲かせるヒイラギナンテンに出会いました。派手さはありませんが、近づいて見ると、一つ一つの花が繊細な形をしており、春の訪れを静かに告げているようです。まだ芽吹ききらない周囲の木々の中で、この淡い黄色はひときわやさしく感じられます。

ヒイラギナンテンはメギ科の常緑低木で、名前の通りヒイラギに似た鋭い葉を持ちますが、ナンテンの仲間ではありません。葉は光沢のある濃緑色で縁にトゲがあり、防御的な印象を与えます。一方で、春先に咲く花は小さな黄色の花が房状に集まり、ほのかな香りを漂わせます。花の後には青紫色の実をつけ、季節ごとに異なる表情を見せる植物です。

この日見かけた花の中には、すでに褐色に変わり始めたものもあり、開花のピークが過ぎつつあることを感じさせました。それでも新しく咲いた花と入り混じり、時間の流れそのものを一枝の中に見るような趣があります。春の植物園では、主役級の花々に目が向きがちですが、こうした控えめな存在にこそ、季節の移ろいの繊細さが宿っているのかもしれません。

